

平成 30 年度
社会福祉法人ファミリーケアサービス
事業報告

目 次

事業報告

社会福祉法人ファミリーケアサービス	…p3
すこやか横手	…p3 ～ p6
特別養護老人ホームすこやか横手	
ショートステイすこやか横手（介護予防）	
ケアハウスすこやか横手	
老人介護支援センターすこやか横手	
すこやか横手居宅介護支援センター	
デイサービスセンターすこやか横手（第1号通所）	
すこやか横手ホームヘルパーステーション	
すこやか大雄	…p6 ～ p7
特別養護老人ホームすこやか大雄	
ショートステイすこやか大雄（介護予防）	
老人介護支援センターすこやか大雄	
すこやか森の家	…p7 ～ p8
特別養護老人ホームすこやか森の家	
ショートステイすこやか森の家（介護予防）	
デイサービスセンターすこやか森の家（第1号通所）	
シルバードームいきいきの郷	…p8 ～ p10
特別養護老人ホームシルバードームいきいきの郷	
ショートステイシルバードームいきいきの郷（介護予防）	
デイサービスセンターシルバードームいきいきの郷（第1号通所）	
増田町居宅介護支援事業所	
増田町在宅介護支援センター	
すこやか館合	…p10 ～ p11
特別養護老人ホームすこやか館合	
ショートステイすこやか館合（介護予防）	
小規模多機能型居宅介護事業所すこやか館合（介護予防）	
居宅介護支援事業所すこやか館合	
児童発達支援事業「モモの家」	…p12
県南愛児園「ドリームハウス」	…p12 ～ p13
横手市サンハイム	…p13
障害者支援施設「ひまわり社」	…p13

事業報告（統計資料）

すこやか横手	…p16 ～ p19
すこやか大雄	…p20 ～ p21
すこやか森の家	…p22 ～ p23
シルバードームいきいきの郷	…p24 ～ p26
すこやか館合	…p27 ～ p29
児童発達支援事業「モモの家」	…p30
県南愛児園「ドリームハウス」	…p31
横手市サンハイム	…p32
障害者支援施設「ひまわり社」	…p33

平成30年度社会福祉法人ファミリーケアサービス事業報告

1. 社会福祉法人ファミリーケアサービス

職員の確保、定着、育成が事業継続上の大きな課題である。この課題への対応として、待遇格差の是正と責任に応じた待遇への再構築を目標に、給与及び組織体系について検討を重ねてきた。また、職員への説明会を開催し、再構築の必要性和検討内容について理解を求めた。

職員確保では、各種就職説明会、学校訪問、施設説明会開催等、積極的に求人活動を展開した。これらの活動を通して、採用に結び付いたケースも多く成果があった。しかし、人材の確保は厳しい環境にある。

すこやか大雄の大規模修繕は、事故もなく計画にしたがって完了した。

法人セミナーは「求められる真の福祉サービスとは…」をテーマとして、福祉のあり方を問いかけた。一般市民、関係機関等の参加も得て、法人から地域へ発信する場にする事ができた。

2. 特別養護老人ホームすこやか横手

施設サービス計画に基づく取り組みについて、課題解決に向けた具体的展開に至らないケースもあったが、計画の定期的評価の形は構築されている。

適切な医療対応による最終的入院率軽減の課題について、複数の医療依存度等の高い入居者へ留意した対応を心掛けたが、入院率軽減までに至らなかった。

職員のキャリアに応じた研修体系の再整備・研修参加率等の確保については、職員体制の都合上、計画通りの研修機会確保は難しかった。

リスクマネジメントについて、具体的展開の理解まで至らない面もあったが、都度のインシデントアンケート記入等の報告の形は定着している。

提供目標と実績（定員50名）

目標 年間延べ17,520人（48.0人／日 利用率96.0%）

実績 年間延べ17,225人（47.2人／日 利用率94.4%）

<要因>

長期及び繰り返し入院による空床期間や、同時期における複数の退所及び、優先すべき行事と調整時期の重複にて、新規入所調整に時間を要す事もあった。

3. ショートステイすこやか横手（介護予防）

安心、安全、快適な生活を約束する施設を重要目標として今年度も取り組んできた。新規利用者の定着等、利用率の維持に努めながら、サービス計画書に基づき継続性のあるケアを実施することができたと評価する。ただ、リスクマネジメントにおいては、一定の評価はできるものの、同様のインシデント発生が繰り返された部

分もあり、職員間のコミュニケーションを密にして連携の強化を図ることや、伝達内容の理解度・捉え方の確認と定期的な対応策実施の評価をしていくことで、チーム全職員の統一したケアの実施、スキルアップに繋げていくことが次年度の課題といえる。また、入退所件数の増加に伴い、コミュニケーションを通した職員の深い関わりの面等、利用者のニーズを踏まえた定期的な余暇活動の実施については十分とは言えず、引き続き実施方法を検討しながら、充実したケア提供を目指していきたい。

提供目標と実績（定員20名）

目標	年間延べ6,716人（18.4人／日	利用率92.0%）
実績	年間延べ6,830人（18.7人／日	利用率93.6%）

<要因>

定期利用者の入院や施設入所等が重なり、空床調整が円滑に行えない時もあったが、新規受け入れや特養空床利用等もあり目標値の利用率を達成できた。

4. ケアハウスすこやか横手

自主性を尊重し日々の生活が“生き生きとした時間”が持てるように家族や各関係機関との連携、協力のもとで医療・介護ニーズに合わせたサービス等、相談調整を実施する事ができた。また、今年度は入退居者各2名で現入居者15名を維持している。平均入居期間が4～5年、筋力低下・認知症等進行が懸念されつつも認知症予防への取り組みや筋力低下予防を実施し活動的な時間の提供ができた。

また、芸能ボランティア・家族・地域等との連携で、特養合同行事や外出支援を行い地域とのつながりが持つ事ができた。

今後の課題としては、入居者の認知症の進行が目立ち始めてきたので認知症予防への取り組みを行いなお一層充実させながら日常生活動作の低下の予防に努めていきたい。

5. 老人介護支援センターすこやか横手

地域に住む高齢者やその家族に対して総合的な相談に応じ、個々のニーズに合った在宅サービスを受けることができるように各関係機関との連携を図り、対象者の自立支援・介護予防に努めることを基本方針とし、支援センター業務として関わってきた。

相談の多くは介護サービスに関することだが、その内容は高齢者本人の身体精神状況、経済状況、家族関係の問題等、様々な課題を含んだものであり、年々課題の多様化・複雑なケースが増えている。その課題を解決していくためにも日頃から地域との関わりを積極的に持ち、包括支援センターや地域住民、各関係機関と連携を図ることで潜在的に支援を必要とする方々へ継続的に関わることで、必要なサービ

スにつなげることができた。

また地域のニーズや実状を把握し、支援をしていくという観点から地域ケア会議・横手市地域包括在介担当者会議へ参加し、情報交換や共通認識を持つことで幅広い連携体制を築くことができています。

今後も対象者が住み慣れた地域・環境で生活することができるよう、相談・支援・連携体制を強化していくことが重要であると考えています。

6. すこやか横手居宅介護支援センター

要支援・要介護状態になってもできる限り住み慣れた地域で自分らしい生活が実現できるよう適切にアセスメントを行い、多面的・総合的に暮らしの全体像を把握することで、その方が望む生活実現への支援を行うことができた。また、多様化する利用者・家族に対し、柔軟且つ横断的に支援していくためにも介護サービス機関・行政機関などと連携協力を図りながら、多職種協働で関わっていくことができた。

質の高いケアマネジメントの実現へ向け、事業所内会議・他居宅介護支援事業所・各種研修会などへ参加し、援助技術向上を図るとともに各種制度や地域のインフォーマルサービスの熟知に努め、実践につなげることができています。

また、事業所自己評価を行うことで業務の見直しや事業所全体の評価、仕事に対しての取り組み方を見直す良い機会となっている。

しかし、入院期間の短縮や利用者家族を取り巻く環境の変化により関わる時間やウエイトが大きく、早急な支援を必要とするケースが増えつつある。そのようなケースに対応していくためにも、個々或いは事業所としての支援方法・調整力の取得や向上が課題となる。

提供目標と実績

目標：介護給付管理	170.0 件／月	予防	20 件／月
実績：介護給付管理	172.7 件／月	予防	28 件／月

<要因>

新規届け出経緯については、電話や紹介など直接依頼を受けるケースが目立っている。

また老人介護支援センターも併設しているため、相談からサービス提供へ速やかに提供できることの強みも加わり目標達成につながっている。

7. デイサービスセンターすこやか横手（第1号通所）

利用者・家族・地域とのつながりを大事にしながら信頼関係を築き、満足していただくようサービス提供に努めた。

ボランティア団体の積極的な受け入れをし、世代を超えた交流を図ることができ、笑顔の多い時間を過ごす事ができた。

また、利用者が安心・安全・快適に過ごすことができるようサービス内容の向上に取り組むため、内部学習会等でスキルアップを目指した。しかし、職員体制によりサービス内容を充実させる取り組みが課題であり、今後は介護リーダーの確立を

目指し、業務改善等の取り組みを行っていく事で更なるサービス内容の向上を行っていく。

提供目標と実績（定員 30 名）

目標 年間延べ 6,600 人（18.0 人／日 利用率 60.2%）

実績 年間延べ 6,183 人（16.9 人／日 利用率 56.5%）

<要因>

複数回利用されている方がショートステイを長期間利用された事により利用率の低下、また介護職員の人員体制が整備できず、複数回の利用者の獲得による延べ人数の増加や新規利用者獲得の制限ができてしまい、登録人数の低下があった。

8. すこやか横手ホームヘルプステーション

介護職員不足の解消と経営改善への対応として、平成 29 年 8 月 1 日から事業を休止する。現在も休止中。

9. 特別養護老人ホームすこやか大雄

今年度、施設の長期間に渡る大規模改修工事を実施し、ホールを使う行事を中止するなど入居者に迷惑をかけたが、快適に過ごせる住環境を整えられた事や、ユニット毎に行事やイベントを企画、実施し、楽しんで頂く事はできた。

今年度も入居者 5 人を嘱託医、家族と連携し、安らかに看取らせて頂いた。

職員体制が十分に整わず、計画的な会議や研修の実施は難しかったが、各職種間の情報共有と連携を密に行った事で、一定の質を維持しながらサービスを提供する事はできた。

提供目標と実績（定員 50 名）

目標 年間延べ 17,520 名（48.0 名／日 利用率 96.0%）

実績 年間延べ 16,711 名（45.8 名／日 利用率 91.6%）

<要因>

月平均約 3.4 名の入院者と、年間で退居者が 18 名（月平均 1.5 名）と多かった事や、入居調整後の辞退者も続いた事も影響し、目標を下回った。

10. ショートステイすこやか大雄(介護予防)

居宅介護事業所と連携しながら、新規利用者の確保を行った。利用日数の長い定期利用者が増え、ご家族・居宅事業所との情報共有に努めた。

また、季節ごとの行事を行いながら、利用者間の交流の機会が得られた。

提供目標と実績（定員 10 名）

目標 年間延べ 3,650 名（10.0 名／日 利用率 100.0%）

実績 年間延べ 3,005 名 (8.2 名／日 利用率 82.2%)

<要因>

29 年度、介護職員の離職が多く、新規利用者の受け入れを制限していた。30 年度は新規利用者の確保に努め、10 月頃より利用者数の回復傾向は見られたが、年間を通しての利用率が伸びず目標を下回った。

11. 老人介護支援センターすこやか大雄

相談窓口業務において、施設入所関係が殆どであり、在宅介護に関する相談は少ない状況にあった。小ネットワーク会議等へ参加し地域状況の把握に努めた。また個別ケースの訪問について、社協からの依頼を受け同行訪問を行った。

活動実績

内 容 大雄地区ケア会議出席 (毎月開催)
大雄地区小ネットワーク会議出席
(大雄地区 20ヶ所実施／15ヶ所へ出席)
大雄支えあいネット (大雄地域第2層協議体) 構成員として参加

相談実績

相談件数 : 167 件(施設入所関係 165 件、その他 2 件)

12. 特別養護老人ホームすこやか森の家

目標には届かなかったが退去者も少なく、一定の利用率を維持する事ができた。しかし、ユニット型特養へ移行後は、新規入居希望者に関しては、利用料金の面など他施設との比較から敬遠される事もあり、入居するまでに期間を要することもあった。また、平均介護度は 3.93 と低めであり、収入面を考慮すると重度の方々の受け入れが必要となるが、地域において必要とされる施設としての役割を再確認しながら今後も調整していく。

提供目標と実績 (定員 30 名)

目標 年間延べ 10,676 人 (29.3 人／日 利用率 97.5%)

実績 年間延べ 10,579 人 (29.0 人／日 利用率 96.2%)

<要因>

特定の入居者の入院が多く見られた。

13. ショートステイすこやか森の家 (介護予防)

利用率が大幅に低下する月がなく一定の水準を保てていたが、目標とする利用率には届かなかった。その背景としては下記の要因が挙げられるが、年間を通し重度の方や日常的に付き添いを要する認知症の方々の受け入れも多くあったことから職員側の負担も多く感じている現状であったが、職種間で連携協力しながら、それ

それぞれの利用者の意向に沿った対応を行い安心なサービスを提供することができた。

提供目標と実績（定員 20 名）

提供 年間延べ 6,756 人（18.5 人／日 利用率 92.5%）

実績 年間延べ 6,519 人（17.9 人／日 利用率 89.3%）

<要因>

入院や死去、体調不良による利用キャンセルが目立った。

月跨ぎでの利用希望者が少なく月初めの確保が困難であった。

14. デイサービスセンターすこやか森の家（第1号通所）

利用調整状況を居宅介護支援事業所の問い合わせに即答する事で、新規利用者の獲得は40名と増加傾向にあったが、利用者の平均年齢も87歳と高齢になり永眠・長期入院・施設入所等が急激に増え稼働の大きな上昇へはつながらなかった。また1月にはインフルエンザの流行で営業自粛も9日間あり、収入の面でも大きく減少してしまった。しかし、その後は職員の健康管理にも意識が強く向き、利用者を安心して受け入れることができる施設へと展開するように努めた。

提供目標と実績（定員 25 名）

目標 年間延べ 6,570 人（18.0 人／日 利用率 72.0%）

実績 年間延べ 5,668 人（15.5 人／日 利用率 62.4%）

<要因>

利用に慣れたところで、ショート利用中心に変わる新規利用者も多く見られた。

15. 特別養護老人ホームシルバードームいきいきの郷

職種間連携のもと、入居者の健康管理の徹底により入院率を抑え、利用率の目標を達成する事ができた。今後も効率的に入所調整ができるよう進めていく。また各団体の慰問や学校の職場体験学習や介護実習、婦人会等ボランティア団体を積極的に受け入れる事で地域との関わりを強く結ぶ事ができた。

提供目標と実績（定員 50 名）

目標 年間延べ 17,337 人（47.5 人／日 利用率 95.0%）

実績 年間延べ 17,583 人（48.2 人／日 利用率 96.4%）

<要因>

嘱託医との連携ときめ細かな医療処置及び介護により、入院率を抑えることができた。

16. ショートステイシルバードームいきいきの郷（介護予防）

特養併設施設の特性を生かし、行政、各事業所との連携も密に行い緊急性、困難

性の高い利用者の積極的な受け入れを行った。特に痰吸引等医療的な要望に答える事で、新規依頼の件数が増え安定した利用率を維持する事ができた。また実地指導において概ね適切であるとの講評があった。この結果を受け今後の更なる高水準なサービスの提供に向けて取り組んでいきたい。

提供目標と実績（定員 11 人）

目標 年間延べ 3,623 人（9.9 人／日 利用率 90.0%）

実績 年間延べ 3,373 人（9.2 人／日 利用率 84.8%）

<要因>

冬季間感染症対策により、利用を制限する期間が長くなった。

17. デイサービスセンターシルバードームいきいきの郷（第1号通所）

選択式のレクレーション活動の実施や空き調整の徹底等で平均稼働率 80%を達成することができた。職員の質・チーム力の向上について、研修や各々の役割が明確化され意識が高まり、互いに意見を交わしながら物事を進めていくことができるようになった。今後の課題として、ヒヤリハットやインシデントが昨年度に比べ増加しており対応策の検討と安全配慮への意識向上が必要である。

提供目標と実績（定員 18 名）

目標 年間延べ 4,185 人（13.5 人／日 利用率 75.0%）

実績 年間延べ 4,509 人（14.6 人／日 利用率 81.3%）

<要因>

ケアマネジャーとの連携と空きのある曜日の情報提供を積極的行ったことが目標達成につながった。

18. 増田町居宅介護支援事業所

平成30年度も目標担当利用者数を達成することができた。特定事業所加算においても、質の高い支援を提供できるよう定期的に事例検討や、他法人との勉強会、研修会企画等を行っている。地域貢献事業の一つである「身近な福祉の出前講座」では、3地域のいきいきサロンから依頼を受けてケアマネジャーを講師として派遣している。引き続きケアマネジャーの業務のみならず、地域の福祉力や介護力の醸成を目的として地域にある集いに出向き地域交流をしていきたい。

提供目標と実績

目標 1,020 人／年（4 人）

実績 1,177 人／年（4 人）

<要因>

福祉の出前講座やいきいきサロン等、地域にある集いに出向き地域交流を深めながら、担当利用者数の目標を達成することができた。

19. 増田町在宅介護支援センター

地域の高齢者等からの様々な相談に総合的に応じ、各種の保健・福祉サービスが受けられるよう関係機関と横断的連携により住み慣れた地域で安心して暮らすことができるように支援を行った。また、相談窓口に来られない方に、積極的に地域へ出向いていきながら、行政や社会福祉協議会、病院等と連携することで複合世帯ニーズ・孤立している世帯・経済的困窮者等の支援を行なった。

20. 特別養護老人ホームすこやか館合

開設からこれまで同じコンセプトを掲げて取り組んできたが、今年度は各ユニットのコンセプトを一新している。各ユニットそれぞれの個性を大切にしながらも、特養全体として統一したケアを行えるよう努めた。

また、地域密着型の特養として、目標にも掲げている「地域との交流」を大切に、運営推進会議の中で出た、施設運営に対する意見や地域のニーズ把握に取り組んだ。地域交流会をはじめ、地域住民とともに開催する行事を実施している。行事を通して、住民との積極的な交流やお互いに楽しみを持つ事に繋がっている。重点課題にもあるリスクマネジメントにおいては、委員会を中心に自己に対する啓発を行い、知識・技術の向上に努めている。安全で安心できる環境の提供に今後も努めていきたい。

提供目標と実績（定員29名）

目標 年間延べ 10,162 人（27.8 人／日 利用率 96.0%）

実績 年間延べ 9,976 人（27.3 人／日 利用率 94.2%）

<要因>

入所決定までに時間がかかり、空床日数が増大した事が稼働率低下の要因となっている。事前の準備に力を入れ、円滑な入所調整ができるように努めていきたい。

21. ショートステイすこやか館合

重点課題にも挙げている専門的サービス提供については、施設内外の研修や職員会議での技術や知識の確認に努めている。また、安心してサービス利用ができるよう家族との信頼関係の構築により、自宅同様の環境の提供に努めた。

職員体制の兼ね合いもあり、外出してのレクリエーションは実施できなかったが、施設内では職員が工夫したものを提供し、楽しみながら、表情良く参加されていた。障害者福祉サービスの利用者受け入れ実績がなかったが、今後も相談支援事業所との連携を図りながら、円滑に受け入れをしていきたい。

提供目標と実績（定員20名）

目標 年間延べ 6,640 人（18.2 人／日 利用率 91.0%）

実績 年間延べ 4,933 人（13.5 人／日 利用率 67.6%）

<要因>

長期利用の方の体調不良による入院や特養入所による減少、介護職員の不足等が重なり、利用を調整したことが要因として挙げられる。各居宅介護支援事業所とも連携を密にし、新規利用者の獲得に力を入れていきたい。

2 2. 小規模多機能型居宅介護事業所すこやか館合（介護予防）

基本方針「楽しく、優しく、すこやかに」を職員信条として、目標である「安心できる地域生活の実現」に努めた。

重点課題「利用者が地域において多様な活動が出来るように支援する。」については、地域交流会を開催時に、ともに参加する事で交流を深めた。

A D Lが低下された利用者や独居の利用者に対しては、訪問サービスや配食サービスを提供しながら、在宅生活継続への支援を行った。

提供目標と実績（登録定員 2 5 人）

目標 月間登録者数 17.0 人(利用率 68.0%)

実績 月間登録者数 15.4 人(利用率 61.7%)

<要因>

年度当初登録者 1 8 名から開始し、施設入所等により登録者数の減少がみられた。入院による登録解除者も多かったが退院後の再利用、地域から新規登録者が増えた事で、大幅な減少には至らなかった。

2 3. 居宅介護支援事業所すこやか館合

基本方針である「要支援・要介護状態の利用者とその家族が住み慣れた自宅や地域で心豊かな生活」が実現できるよう、其々のニーズを把握すると共に、地域包括支援センターや医療機関、サービス提供事業所等と連携を図りながら支援を行なうよう努めた。

重点課題の「地域に密着した事業の展開」については、地域主体の事業や地域ケア会議等に積極的に参加し、事業所の周知に努めた。

利用者一人ひとりのニーズや環境に応じて、利用者の選択に基づき適切なサービスを効率的に提供するように努めた

提供目標と実績

目標 介護給付管理 月間 68.0 件

実績 介護給付管理 月間 54.9 件 介護予防支援計画 月間 8.9 件

<要因>

新規契約 1 2 件（うち介護予防 4 件）に対し、施設入所や永眠等による契約終了が 1 7 件であった。新規依頼時に既に終末期で、担当期間が短期間になってしまうこともあった。地域の方や、現担当利用者の家族等より紹介されたケースもあったが、地区全体として新規依頼が減少しているということもあり、定期的な居宅依頼は少なく、目標達成には至らなかった。

24. 児童発達支援事業「モモの家」

平成30年度の在籍児童数は67名（6歳児25名、5歳児19名、4歳児14名、3歳児6名、2歳児3名）であった。新入園児は29名で、昨年度に比べて11名多かった。昨年度までと同様、保健センターからの紹介が主であった。

個別支援計画の作成にも重点を置き、児童一人一人の特性や保護者の願いに応じた内容を目指し、保護者との対話を重視した。また職員間で情報を共有し、対応が一貫したものになるよう努めた。

10月には、横手支援学校の佐々木先生を講師に招き、「保護者学習会」を行った。就学や就労についての講義に、保護者からも活発に質問が出るなど大変有意義な学習会となった。「すくすくネットワーク」でも地域の保育園との情報交換を行い、保育の場・療育の場双方でそれぞれの児童に効果的な支援が行えるような連絡調整を行った。年5回開催した健康相談では、多岐にわたるテーマで各医師から講義いただいた。

また、今年度は事業所自己評価を行い、利用者からのアンケートを実施し、今後の課題が明らかとなった。

保護者が安心して療育を受け、豊かな生活を送れるよう、保護者の不安や心配に耳を傾けながら、職員全体でより具体的な支援の提供に努めた。

提供目標と実績（定員10名）

目標 年間延べ 2,106人（9.0人／日 利用率90.0%）

実績 年間延べ 2,211人（9.4人／日 利用率94.0%）

<要因>

在籍児童数が昨年度より11名増えたため。

25. 県南愛児園「ドリームハウス」

平成30年度は、本園25名、地域小規模児童養護施設6名、合計31名でスタートしたが、年度後半に2名の児童が家庭復帰、1名が他施設への措置変更、1名が自立することができた。また年度中に5名の入所もあった。入所が増加したことにより、暫定措置を回復することができた。短期利用において、ショートステイ延べ日数85日（前年度実績1,4倍）、緊急一時保護延べ日数1日（依頼件数10件）という状況だった。入所児童の課題も複雑多岐にわたり、施設機能の強化や職員の支援技術の向上が求められた。当園ではここ数年、短期利用や一時保護といった福祉課題に直面しており、これらの地域子育て支援の対応が求められている。

平成28年度改正「児童福祉法」、平成29年度提示された「新しい社会的養育ビジョン」をもとに秋田県においても「秋田県社会的養育推進計画」の見直しがされている。当園としても秋田県・横手市と協議を重ねながら、今後のあるべき児童養護施設の形態を検討することができた。

これからも関係機関とともに地域、子育て世代等から必要とされる施設の在り方を検討し、実現できるように努めたい。

26. 横手市サンハイム

平成30年度は15世帯49名でスタートした。年度内に保護期間の終了を迎えるため退所に向かった世帯が4世帯いる。3～9年の間施設で生活し地域で生活する力をつけて自立している。その他の3世帯が、まだまだ支援が必要な状況ではあったが入学などの節目を機に退所したため電話相談等のアフターケアを継続している。入所世帯は1世帯で、DV被害から広域入所となった。児童は療育が必要な世帯のため、法人「モモの家」を利用している。療育支援を受ける児童は増加しており、母と一緒に関係機関と連携を図り手厚く支援をしている。

近年の傾向として、受診や諸手続きが一人では心配な方や朝食を食べさせて登校させる、居室を片付ける、洗濯をするなど生活の基本的な作業が苦手なお母さんが多く、生活場面の細部に渡り支援することで少しずつ生活力をつけてきている状態である。

子どもの躰や関係性等に悩んでいる方も多く、心理療法担当職員による施設内研修をするなどして職員のスキルアップにも努めた。

入居者減少に伴い、県内外の福祉事務所にパンフレットやリーフレットを配布するなどの広報活動に努めてきた。今後も入居者増を図るために継続していきたい。

27. 障害者支援施設「ひまわり社」

工賃アップの課題は、資源回収において回収先を開拓したこと、段ボールの単価が上がったこともあり、1人当たりの平均工賃は増加した。そのため次年度の基本報酬増に結び付いた。しかし、資源回収の単価は変動があり、工賃の維持確保には不安定な状況がある。障がい重い利用者も多く平均工賃のアップには課題が多い。

相談支援事業では、一人（生活支援員兼務）増員し、障がい児の相談支援専門員として体制を整える。

建物、設備の老朽化により多くの修繕が必要になっている。

資料内の用語について

※インシデント報告

事故、ヒヤリハット、苦情、不満、意見等の事例（インシデント）に関する報告。

※ヒヤリ・ハット

危険な目に遭いそうになって、ひやり（ヒヤリ）としたり、はっと（ハット）したりすること。重大な事故に発展したかもしれない危険な出来事。

施設別利用実績

区分	施設	定員	年間延利用数 (人)	1日平均 (人)	利用率 (%)
特養	すこやか横手	50	17,225	47.2	94.3
	すこやか大雄	50	16,711	45.8	91.6
	すこやか森の家	30	10,579	29.0	96.2
	いきいきの郷	50	17,583	48.2	96.4
	すこやか館合	29	9,976	27.3	94.2
計		209	72,074	197.45	94.5
シ ョ ー ト ス テ イ	すこやか横手	20	6,830	18.7	93.3
	すこやか大雄	10	3,005	8.2	82.2
	すこやか森の家	20	6,519	17.9	89.3
	いきいきの郷	11	3,373	9.2	84.8
	すこやか館合	20	4,933	13.5	67.6
計		81	24,660	67.56	83.4
デ イ サ ー ビ ス	すこやか横手	30	6,183	16.9	56.5
	すこやか森の家	25	5,668	15.5	62.4
	いきいきの郷	18	4,509	14.6	81.3
計		73	16,360	47.02	66.7

資料1 すこやか横手

特別養護老人ホーム

1. 年齢階層（平成31年3月31日現在）

平均：男性 84.7歳 女性 89.1歳

	～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳～	合計
男	1	0	0	0	1	1	3	0	0	6
女	1	1	0	2	6	12	9	10	3	44
合計	2	1	0	2	7	13	12	10	3	50

2. 入居期間別状況（平成31年3月31日現在）

	～1年	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5年～	合計
男	2	2	1	0	0	1	6
女	6	10	6	2	5	15	44
合計	8	12	7	2	5	16	50

3. 要介護度（平成31年3月31日現在） 平均 4.18

	1	2	3	4	5	合計
男	0	0	2	0	4	6
女	0	2	10	12	20	44
合計	0	2	12	12	24	50

4. 退居理由（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

	在宅復帰	死亡	長期入院	合計
男	0	3	0	3
女	0	7	0	7
合計	0	10	0	10

5. インシデント年間集計（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
4	208	2	6	85	305

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
48	15	4	30	22	3	73	1	7	0	9

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
1	0	0	0	1

ショートステイ

1. 延べ人数及び介護度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延べ人数	574	599	579	598	586	535	548	525	587	580	534	580	6,830
平均介護度	3.46	3.31	3.41	3.35	3.40	3.23	3.31	3.49	3.35	3.45	3.53	3.38	3.39

2. インシデント年間集計（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
3	39	2	3	12	59

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
17	9	2	4	1	2	3	5	0	0	0

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
2	0	0	0	0

ケアハウス

1. 入居・退去状況

①平均在籍期間（平成31年3月31日現在）

在籍年数	1~6ヶ月	1~2年	3~4年	4~5年	6~7年	8~9年	10年~	平均
人数	0	4	3	1	6	1	0	4.6

②年度内在籍数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延人数
男	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
女	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
計	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180

老人介護支援センター

相談件数（重複あり）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規相談	6	6	4	2	5	5	2	4	2	4	4	4	48
継続相談	1	0	0	0	1	1	2	0	4	3	1	1	14

相談経路（重複あり）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問	2	0	0	0	1	1	2	0	2	0	1	1	10
電話	5	3	4	1	3	3	2	2	4	6	2	4	39
来所	0	3	0	1	1	1	0	2	0	1	2	0	10

相談種別（重複あり）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護相談	7	6	4	1	3	5	4	4	3	4	5	5	51
福祉事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療・入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
施設入所	0	0	0	0	3	1	0	0	0	3	0	0	7
各種申請代行	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
あんしんバトン	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
認知症	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
高齢者虐待	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3

居宅介護支援センター

1. ケアプラン介護度別保険請求及び予防プラン・認定調査件数

介護度	%	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	22.4	41	37	39	41	39	41	37	39	43	38	34	36	465
2	30.2	53	54	52	54	52	51	52	52	57	54	48	48	627
3	20.0	28	30	31	34	38	37	34	33	38	41	37	33	414
4	17.2	35	34	32	29	29	33	26	28	31	27	25	27	356
5	10.2	18	20	18	19	19	17	15	16	16	17	16	20	211
合計	100	175	175	172	177	177	179	164	168	185	177	160	164	2,073

（予防プラン・認定調査件数）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防	件数	24	23	26	28	28	28	28	29	29	31	30	33	337
認定調査	在宅	5	11	3	6	6	4	8	9	3	8	11	10	84
	施設	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	2	1	7
	合計件数	5	11	3	6	6	4	9	10	3	10	13	11	91

デイサービス

1. 延べ人数及び介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延人数	500	529	538	571	557	526	557	509	481	473	453	489	6,183
平均介護度	2.3	2.3	2.4	2.4	2.3	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.30

2. インシデント年間集計（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
0	34	2	0	1	37

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ 誤薬	車椅子 より 転落等	ベッド より 転落等	経管栄養 管外れ 抜去等	食事形態 確認 ミス異 食等	外傷 打撲 骨折等	徘徊 無断 外出等	設備 管理 不備等	移乗移動 介助 ミス	その他 介助 ミス等
6	1 4	0	0	1	1	2	1	1	3	6

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
2	0	1	0	0

ホームヘルプステーション

休止中

資料２ すこやか大雄

特別養護老人ホーム

１．年齢階層（平成３１年３月３１日現在）

平均：男性８２．７歳 女性８８．１歳

	～64 歳	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90～94 歳	95～99 歳	100歳 ～	合計
男	0	1	1	1	1	5	2	0	0	11
女	1	0	1	0	5	13	15	3	0	38
合計	1	1	2	1	6	18	17	3	0	49

２．入居期間別状況（平成３１年３月３１日現在）

	～1年	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5年～	合計
男	4	3	1	0	0	3	11
女	14	4	6	5	1	8	38
合計	18	7	7	5	1	11	49

３．要介護度（平成３１年３月３１日現在） 平均 4.34

	1	2	3	4	5	合計
男	1	0	1	5	4	11
女	0	1	4	16	17	38
合計	1	1	5	21	21	49

４．退居理由（平成３年４月１日～平成３１年３月３１日）

	在宅復帰	死亡	長期入院	合計
男	0	5	0	5
女	0	13	0	13
合計	0	18	0	18

５．インシデント年間集計（平成３０年４月１日～平成３１年３月３１日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
1	110	2	0	1	114

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ 誤薬	車椅子より 転落等	ベッドより 転落等	経管栄養管外 れ抜去等	食事形態確認 ミス異食等	外傷打撲 骨折等	徘徊無断 外出等	設備管理 不備等	移乗移動介助 ミス	その他 介助ミス等
1	15	13	5	20	2	17	0	0	4	35

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
1	0	0	1	0

ショートステイ

1. 延べ人数及び介護度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延べ人数	180	221	229	190	246	204	262	320	309	285	262	297	3,005
平均介護度	3.15	3.36	2.98	3.02	2.98	2.94	2.95	2.80	3.16	2.90	3.03	3.09	3.05

2. インシデント年間集計（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
0	26	1	0	1	28

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
4	6	0	1	0	2	4	1	0	0	9

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
1	0	1	0	0

老人介護支援センター

相談件数（重複あり）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規相談	18	19	6	4	21	12	10	8	12	11	30	16	167
継続相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

相談経路（重複あり）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
電話	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
来所	18	19	6	3	20	12	10	8	12	11	30	16	165

相談種別（重複あり）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福祉事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療・入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設入所	18	19	6	3	20	12	10	8	12	11	30	16	165
各種申請代行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
あんしんバトン	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
認知症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高齢者虐待	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

資料3 すこやか森の家

特別養護老人ホーム

1. 年齢階層（平成31年3月31日現在）

平均：男性 88.4歳 女性 87.4歳

	～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳～	合計
男	0	0	0	1	0	1	2	1	0	5
女	1	0	1	1	5	3	10	3	0	24
合計	1	0	1	2	5	4	12	4	0	29

2. 入居期間別状況（平成31年3月31日現在）

	～1年	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5年～	合計
男	1	1	1	0	0	2	5
女	2	2	4	2	3	11	24
合計	3	3	5	2	3	13	29

3. 要介護度（平成31年3月31日現在） 平均 3.93

	1	2	3	4	5	合計
男	0	2	0	1	2	5
女	0	2	4	10	8	24
合計	0	4	4	11	10	29

4. 退居理由（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

	在宅復帰	死亡	長期入院	合計
男	0	0	0	0
女	0	3	0	3
合計	0	3	0	3

5. インシデント年間集計（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
2	95	2	0	0	99

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
11	18	5	5	7	2	23	0	4	3	19

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
2	0	0	0	0

ショートステイ

1. 延べ人数及び介護度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延べ人数	554	526	545	551	546	546	556	537	537	549	504	568	6,519
平均介護度	3.31	3.31	3.10	3.07	3.02	2.93	3.03	3.01	2.97	3.00	2.94	2.77	3.08

2. インシデント年間集計（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
2	54	4	1	0	61

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
9	24	1	2	0	3	3	1	3	2	9

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
4	0	0	0	0

デイサービス

1. 延べ人数及び介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延人数	455	500	477	484	461	475	491	498	511	328	479	509	5,668
平均介護度	2.34	2.31	2.35	2.28	2.32	2.29	2.33	2.28	2.39	2.40	2.55	2.30	2.35

2. インシデント年間集計（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
1	26	1	0	0	28

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
6	4	0	0	0	5	1	0	1	0	10

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
1	0	0	0	0

資料４ シルバードームいきいきの郷

特別養護老人ホーム

１．年齢階層（平成３１年３月３１日現在）

平均：男性 ８１．９歳 女性 ８７．９歳

	～64 歳	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90～94 歳	95～99 歳	100～ 歳	合計
男	0	2	0	0	1	5	0	0	0	8
女	0	2	1	2	9	7	15	6	0	42
合計	0	4	1	2	10	12	15	6	0	50

２．入居期間別状況（平成３１年３月３１日現在）

	～1年	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5年～	合計
男	2	1	1	1	1	2	8
女	15	7	1	5	4	10	42
合計	17	8	2	6	5	12	50

３．要介護度（平成３１年３月３１日現在） 平均 ４．７８

	1	2	3	4	5	合計
男	0	0	1	2	5	8
女	0	0	1	5	36	42
合計	0	0	2	7	41	50

４．退居理由（平成３０年４月１日～平成３１年３月３１日）

	在宅復帰	死亡	長期入院	合計
男	0	4	0	4
女	0	13	0	13
合計	0	17	0	17

５．インシデント年間集計（平成３０年４月１日～平成３１年３月３１日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
0	113	1	0	0	114

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ 誤薬	車椅子 より 転落等	ベッド より 転落等	経管栄養 管外 れ抜き 等	食事形 態確認 ミス異 食等	外傷 打撲 骨折等	徘徊 無断 外出等	設備 管理 不備等	移乗移 動介助 ミス	その他 介助 ミス等
14	0	2	12	20	0	32	0	0	0	33

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
1	0	0	0	0

ショートステイ

1. 延べ人数及び介護度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延べ人数	263	262	281	295	323	289	308	289	273	249	263	278	3,373
平均介護度	3.6	3.7	3.4	3.4	3.6	3.7	3.9	4.0	3.7	3.7	3.6	3.6	3.7

2. インシデント年間集計（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
2	56	1	0	0	59

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
11	2	7	11	3	0	6	0	0	0	18

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
1	0	0	0	0

居宅介護支援センター

1. ケアプラン介護度別保険請求及び予防プラン・認定調査件数

介護度	%	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	23.7	23	22	23	22	21	23	23	20	20	19	23	20	259
2	37.0	29	31	30	31	32	31	31	35	36	38	39	41	404
3	24.6	19	21	21	23	24	24	22	24	24	24	22	20	268
4	7.7	8	6	8	7	6	7	7	7	8	6	6	8	84
5	7.0	5	5	4	5	6	6	7	8	8	7	8	7	76
合計	100	84	85	86	88	89	91	90	94	96	94	98	96	1,091

（予防プラン・認定調査件数）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防	件数	4	5	5	7	8	9	10	8	8	8	7	7	86
認定調査	在宅	7	4	5	4	3	2	4	5	5	5	4	1	49
	施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計件数	7	4	5	4	3	2	4	5	5	5	4	1	135

老人介護支援センター

1. 相談件数 種別

相談件数（重複あり）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規相談	3	9	3	5	6	7	4	2	2	11	6	2	60
継続相談	9	2	9	4	4	4	1	0	1	4	0	0	38

相談経路（重複あり）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問	8	3	1	3	1	6	0	0	0	6	1	0	29
電話	5	8	10	5	8	5	3	2	2	10	5	1	64
来所	1	0	1	1	1	1	2	0	1	0	0	1	9

相談種別（重複あり）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護相談	4	9	10	6	7	10	9	2	3	13	2	2	77
福祉事業	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
医療・入院	2	1	3	3	7	1	0	0	1	0	3	0	21
施設入所	0	0	2	0	4	1	0	0	0	0	1	0	8
各種申請代行	0	0	1	1	1	1	4	0	1	4	0	0	13
あんしんバトン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認知症	0	1	2	1	1	0	0	0	0	0	1	0	6
高齢者虐待	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
その他	4	1	1	1	0	2	0	0	0	2	1	1	13

デイサービス

1. 延べ人数及び介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延人数	360	367	411	389	393	368	429	413	355	333	339	352	4,509
平均介護度	2.4	2.4	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	2.5	2.4	2.47

2. インシデント年間集計（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
1	28	1	0	0	30

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
2	1	1	0	0	0	2	0	0	1	22

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
1	0	2	2	0

資料5 すこやか館合

特別養護老人ホーム

1. 年齢階層（平成31年3月31日現在）

平均：男性 88.0歳 女性 90.2歳

	～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳～	合計
男	0	0	0	1	1	2	1	1	0	6
女	0	0	0	0	2	5	8	6	0	21
合計	0	0	0	1	3	7	9	7	0	27

2. 入居期間別状況（平成31年3月31日現在）

	～1年	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5年～	合計
男	3	1	0	1	0	1	6
女	3	7	4	4	0	3	21
合計	6	8	4	5	0	4	27

3. 要介護度（平成31年3月31日現在） 平均 4.21

	1	2	3	4	5	合計
男	0	0	1	3	2	6
女	0	1	3	8	9	21
合計	0	1	4	11	11	27

4. 退居理由（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

	在宅復帰	死亡	長期入院	合計
男	0	0	0	0
女	0	6	2	8
合計	0	6	2	8

5. インシデント年間集計（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
0	82	3	0	0	85

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
1	15	2	8	3	6	17	0	7	5	18

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
2	0	0	1	0

ショートステイ

1. 延べ人数及び介護度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延べ人数	413	430	427	423	449	387	392	394	417	433	373	395	4,933
平均介護度	2.76	2.69	2.93	3.04	2.86	2.66	2.76	2.86	2.89	3.00	2.79	2.61	2.80

2. インシデント年間集計（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
3	63	6	0	0	72

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
8	9	1	2	8	1	12	0	8	2	15

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
6	0	0	0	0

小規模多機能型居宅介護

1. サービス利用状況

利用実績内訳（介護給付）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通い	272	242	218	214	207	229	256	240	268	247	257	267	2,917
泊り	125	116	103	116	116	108	124	129	148	134	154	155	1,528
訪問	18	19	12	12	9	6	9	9	7	11	0	1	113

利用実績内訳（介護予防）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通い	114	94	90	98	103	100	110	102	123	102	83	88	1,207
泊り	5	4	0	16	31	30	31	30	34	34	31	39	285
訪問	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2. インシデント年間集計（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

分類別報告数

事故	ヒヤリ・ハット	苦情・不満	意見	その他	合計報告数
0	49	1	0	0	50

発生内容

転倒等	服薬飲み忘れ誤薬	車椅子より転落等	ベッドより転落等	経管栄養管外れ抜去等	食事形態確認ミス異食等	外傷打撲骨折等	徘徊無断外出等	設備管理不備等	移乗移動介助ミス	その他介助ミス等
12	8	0	1	0	2	10	2	0	0	14

苦情・不満等

職員の対応	入居者間	送迎	連絡等	設備不備
1	0	1	0	0

居宅介護支援センター

1. ケアプラン介護度別保険請求及び予防プラン・認定調査件数

介護度	%	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	27.7	22	21	23	22	20	19	18	19	19	16	15	14	228
2	31.1	19	18	22	25	24	23	22	21	22	20	20	20	256
3	10.2	12	9	8	7	6	6	6	6	5	7	6	6	84
4	22.3	16	19	13	16	17	16	15	12	15	15	15	15	184
5	8.7	6	6	6	8	5	6	5	6	6	6	6	6	72
合計		75	73	72	78	72	70	66	64	67	64	62	61	824

(予防プラン・認定調査件数)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防	件数	4	4	3	3	4	5	6	6	6	6	6	6	59
認定調査	在宅	5	2	11	1	5	1	2	4	4	3	1	6	45
	施設	0	0	0	0	5	0	2	0	0	0	0	0	7
	合計件数	5	2	11	1	10	1	4	4	4	3	1	6	52

資料6 児童発達支援事業「モモの家」

1.入退園状況（平成31年3月31日現在）（単位：人）

区分 性別	本年度入園 児童数	本年度卒退園児童数				計	次年度 へ移る
		普通	特学	支援学 校	その他		
男	48	10	5	3	3	21	27
女	19	4	2	1	1	8	11
計	67	14	7	4	4	29	38

2.地域別通園状況

（平成31年3月31日現在）（単位：人）

地域 性別	横手	その他	計
男	46	2	48
女	18	1	19
計	64	3	67

3.年齢別表（平成31年3月31日現在）

（単位：人）

年齢 人数	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	その他	合計
合計	0	0	0	6	14	19	25	0	67

4.月別通園状況（平成31年3月31日現在）

（単位：人）

月別 内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通園延べ人数	145	190	196	159	173	166	202	195	214	182	211	178	2,211
療育日数	18	21	21	21	20	18	20	21	18	18	19	19	234
平均人数	8.1	9.1	9.3	7.6	8.7	9.2	10.1	9.3	11.9	10.1	11.1	9.4	9.5

5.障害の種別（平成31年3月31日現在）

（単位：人）

障害別 性別	身体障害 者手帳有	診断名有 (知的障害)	診断名有 (自閉症スペクトラム・注 意欠陥多動 障害等)	診断名有 (ダウン症・ てんかん等)	その他	合計
男	0	5	7	2	34	48
女	1	2	3	1	12	19
合計	1	7	10	3	46	67

資料7 県南愛児園「ドリームハウス」

1. 平成30年度在籍状況（毎月1日現在）

本園

（単位：人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
25	26	26	26	27	27	27	28	29	28	28	28

（平均27.1人／月 利用率90.3%）

分園（地域小規模児童養護施設きずな）

（単位：人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

（平均6人／月 利用率100%）

2. 出身地別

（単位：人）

横手市	秋田市	仙北市	大仙市	湯沢市	由利本荘市	潟上市	羽後町	美郷町	合計
7	4	2	4	8	4	2	1	2	34

3. 入所理由別人数

（単位：人）

養育困難	2
児童の問題行動による養育困難	2
実母精神障害による養育困難	2
継父による身体的虐待	2
実母による虐待（ネグレクト）	1
実母による身体的虐待	3
両親による虐待（ネグレクト）	3
母精神障害によるネグレクト	2
実父による身体的、心理的虐待	4
棄児	1
実母による虐待（身体・心理他）	2
家庭内暴力・母身体的虐待	1
両親による身体的虐待	3
養育者死亡による養育困難	1
両親の低育児能力・ネグレクト	1
養育不安・母からの身体的虐待	1
保護者不在・養育困難	2
兄による性的虐待・母心理的虐待	1
合計	34

4. 学年別

（単位：人）

	男子	女子	計
幼児	0	2	2
小1	0	3	3
小2	1	1	2
小3	1	1	2
小4	3	2	5
小5	4	2	6
小6	1	1	2
中1	0	2	2
中2	2	0	2
中3	1	1	2
高1	1	1	2
高2	1	1	2
高3	0	1	1
無所属	0	1	1
計	15	19	34

資料8 横手市サンハイム

1. 在所世帯の入所年度

年度	21	22～25	26	27	28	29	30	計	平均
世帯数	1	0	2	3	0	3	1	10	3年5か月

2. 地域別在所数

地域別	横手市	秋田市	仙北市	羽後町	県外	計
世帯数	5	1	1	2	1	10
人数	17	3	2	5	3	30

3. 入退所及び一時保護の状況

	入所世帯	退所世帯	一時保護
4月			
5月			2
6月		1	2
7月		2	
8月			
9月			
10月		1	
11月	1	1	
12月			
1月			
2月		1	
3月		1	
合計	1	7	4

4. 世帯構成

家族数	2人	3人	4人	5人	計
世帯数	4	3	2	1	10

5. 母の年齢（人）

年齢	20代	30代	40代	50代	平均年齢
人数	3	3	4	0	35.1歳

6. 児童の年齢（人）

	乳幼児	小1～3	小4～6	中学生	高校生	その他	合計
男	4	3	1	0	1	1	10
女	3	1	3	2	1	0	10
計	7	4	4	2	2	1	20

資料9 障害者支援施設「ひまわり社」

1. 利用者延人数（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活介護	165	160	169	175	176	151	170	151	150	147	146	158	1,918
就労B	241	247	248	251	253	216	260	244	225	221	225	236	2,867

2. 利用者数（人）

性別	男性	女性	合計
生活介護	9	3	12
就労B	10	4	14

3. 障害種別（人）

	知的	身体	精神	合計
生活介護	12	5	0	17
就労B	10	4	2	16

※重複あり

4. 障害程度区分

区分	1	2	3	4	5	6	平均区分
生活介護	0	0	3	5	2	2	4.3
就労B	—	—	—	—	—	—	—

5. 日中一時支援事業 利用者延人数（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日中一時支援	102	103	89	89	74	85	106	92	86	70	96	72	1,064

6. 相談支援事業利用者件数（新規・モニタリングを含む）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談支援（計画・児）	22	20	23	6	16	15	14	19	18	6	12	26	197

